

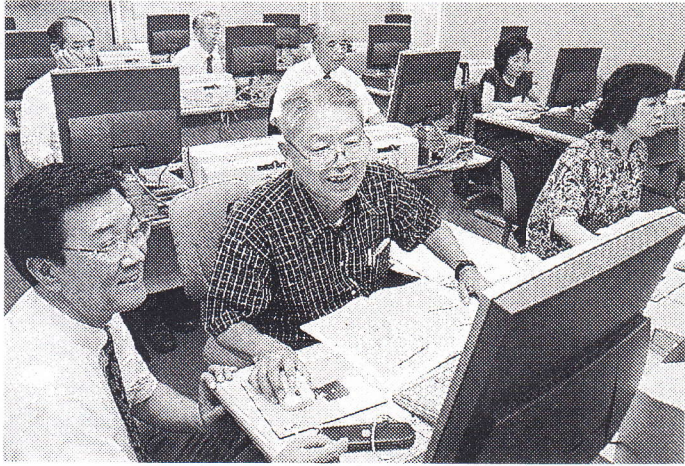
シニアを対象にしたパソコン教室が盛況だ。インターネットの大波に乗り遅れまいとパソコンに関心を持つ中高年が急増中で、教室側もシニア層を意識した講座を開設している。シニアのパソコン上達法のポイントをまとめてみた。

「三カ月に一回しか電話をかけてこなかった息子と毎日メールを交換しています」。笑顔满面で話す都内の主婦(53)は娘が通うパソコン教室を見学したのを機に同じ教室に通い始めた。初めてキーボードに触ってから三カ月。わずか十行のメールにまだ十五分以上かけるが「メール交換でキーボード操作にも慣れてきた」と話す。

「小泉首相のメールマガジンを下さい」。横浜市の主婦(63)はメールマガジンを冊子と勘違いし自民党支部を訪れたのが教室通いのきっかけだった。生徒になって一カ月。今ではネット上での買い物に挑戦している。

シニアのパソコン教室通いの動機は様々だが共通するのは「時代に取り残されたくない」という危機感が強い」とNECの平林勇氏(パソコン教室事業責任者)は語る。

同社のパソコン教室「NEC・PCカレッジ」では五十歳以上の専用講座を九八年から開設。受講者はネットが普及した



楽しく覚えるパソコン

上達のコツは...

昨年から急増した。十人前後の少人数制で同年代の講師が電源の入れ方など基礎から指導する。受講料は教材代込みで七万七千円。富士通ラーニングメディア(東京・大田)でもシニア専用講座を全国六十五カ所で開設。秋葉原校(東京・千代田)に通

った宇田川昌郎さん(69)は最初はキーボードに触るのも不安だったが十三回の授業で随分使えるようになった。情報技術(IT)時代に乗り遅れないよう今後も勉強したい」と話す。同校によるとシニアのパソコン上達の秘けつは三点ある。まず、電子メールや家計簿作成など毎日利用する目的を持つ

・毎日使う
・若者に相談
・基礎きちんと

シニア向けパソコン教室の講座内容

NEC・PCカレッジの50歳以上クラス講座は3時間全13回、受講料8万1900円

- ①パソコンの電源の入れ方
- ②マウスとウィンドウズの基本操作
- ③キーボード入力と日本語変換の基礎
- ④ひらがな、漢字、記号などの入力
- ⑤文字の削除、移動、複写
- ⑥文字のサイズ変更、字体、文字飾り
- ⑦総合演習(⑥までの復習)
- ⑧ホームページの閲覧
- ⑨見たいホームページの見つけ方
- ⑩電子メールの送受信
- ⑪デジタルカメラによる写真撮影
- ⑫写真入りのはがき作成
- ⑬はがきのあて名の入力と印刷

シニア向けパソコン教室で学ぶ人たちが(東京・千代田のNEC・PCカレッジ)

ことだ。キーボードに毎日触れるパソコンでできることに何でも感動する。第二はパソコンに詳しい若者のアドバイスを素直に聞く。自分の子供や若い者に頭を下げる

のはイヤ」と考えず、分からないことは何でも相談する。第三はパソコン教室で基礎をきちんと身につけること。同じ初心者と同級生と毎日メールを交換するのも上達の近道だ。

パソコン選びについては、目が疲れない大きい液晶画面の商品が最適という。また初心者にはハードディスクの容量など性能は気にせず、むしろ問い合わせの電話に丁寧に対応するコールセンターが充実したメーカーを選ぶと安心だ。

メーカー側も日本IBMがホームページの文字を簡単な操作で拡大できるソフトウェアを搭載。NECは文字を読み上げるソフトを開発しており、目や耳が不自由な高齢者でも使いやすいパソコンが増えている。これまでパソコンは「使えたら便利なモノ」だった。今後は必需品になる可能性が高く「シニアこそパソコンの恩恵を受ける」(NEC)との見方もある。

政府が二〇〇三年をめどに国や自治体の行政手続きをインターネットで処理する「電子政府」構想では、自宅にいながらパソコンを通して住民登録などが可能になる。遠距離にある大病院の医師とパソコンで交信し、診察を受けられる遠隔医療システムも急ピッチで開発が進んでいる。猛暑のなか役所や病院に行く手間が省け、自宅でサービスを受けられる利点は大きい。地方自治体の中にはシニア向け教室を開催し、パソコンの上達を支援しているところもある。携帯電話が生活に根付いたように、パソコンが使えることを前提にしたサービスが提供される日も近い。シニア向けのパソコンを開発した日本IBMの堀田一英常務は「パソコンは難しいという概念を捨てて、同じ初心者の仲間と楽しみながら使ってほしい」と助言する。